福島県の経塚遺物展

解説目録

とき　昭和52年9月1日(木)～9月30日(金)
ところ　福島県文化センター歴史資料館展示室
主催　福島県文化センター・福島県教育委員会

経塚について

主として、法華経等の経典を書き写して、これを経筒や経箱などの容器に入れ、土の中に埋納し土盛りしたところを経塚とよびならわしている。

日本においては、慈覚大師円仁（七九四～八六四、平安時代前期の天台宗の僧）が比叡山の横川において始めた如法写経を契機として、およそ一〇世紀の終り頃から、先ず近畿地方に造営がはじまったとされている。

東北においては、これよりずっと遅れて、十二世紀に入ってからであるが、その最初のものが本県喜多方市の松野千光経塚であることは注目される。

経塚の造営は、その始めにおいて、平安時代に切実化した末法思想、つまり仏法が滅するということを怖れて、これにそなえて経典を地下に埋め、後の人々に伝えようとしたのであるが、次第に自己中心的な私益のみを考えた造営に変って来るといわれる。

経塚造営の最盛期は、平安時代の末期から鎌倉初期頃であるが、この時期の経塚は、法華信仰を中心とする天台宗関係の寺院近くや、修験の霊地等から発見される場合が多い。

経塚は、平安時代以後も鎌倉・室町・江戸と各時代を通して造営されるのであるが、ことに室町以後はかなり造営の主旨も内容も変ってしまう。

今回の展示においては、平安期の主要な経塚遺物をはじめ、室町・江戸時代の経塚遺物を一堂に展覧しており、経塚というものへの理解を深めるには勿論のこと、信仰史、美術・工芸史的にもみるべきものと思われる。

この機会に多くの方々にご高覧いただければ幸いである。

最後に、本展覧会に出陳の御協力を賜わった方々、ならびに種々お手配いただいた関係教育委員会に対し厚く謝意を表するとともに、目録作成にあたって格別のご寄稿を賜わった東京国立博物館の関先生に対し厚く御礼申し上げる次第である。

一、天王寺経塚

平安時代後期
福島市飯坂町字天王寺

(1) 陶製経筒（重文）　高二六・〇センチ
(2) 陶製壺　高二五・六センチ
(3) 陶製壺　高二九・七センチ
(4) 陶製壺　高三九・五センチ

天王寺

天王寺の裏山頂上から明治三十二年（一八九九）一月に発見された経塚で陶製経筒（外筒）の他陶製壺が伴出している。

経筒には、

敬白
奉施入
信夫御庄天王寺如法堂一品
大勧進聖人僧定心
大檀主藤原真年縁友作者代
同姓代　同姓代
小勧進　白井友包　糸井国数
藤原貞清　縁友源代
藤井末遠　日田部貞家
小太良殿
佛子僧宴海　僧慶勢
僧龍筌
稲石丸　犬子丸
源長宗縁友
右志者為慈尊三会之暁同令
一佛浄土往生也
承安元年歳次辛巳　八月十九日
取筆僧　長筌

とあり、この経筒は初め天王寺の如法堂内に奉納されたのち、経塚として埋納されたことが知られる。

(1)

二、平沢寺経塚

平安時代後期
伊達郡桑折町

経筒拓本（県重文）一幅　氏家　宏

文政五年（一八二二）開墾の折に発見、承安元年（一一七一）銘の経筒が出土しているが早くから人出に渡り大正十二年の震災のとき失なわれたという。幸い拓本が伝えられ経筒には次のような銘文がある。

敬白　奉施入
伊達郡平沢寺如法銅
大観進聖人僧長胤
大檀主　僧永筌
糸井国数
藤原貞清
白井友包
藤井末遠
右志者為慈尊暁
一佛国土往生也
承安元年辛巳八月
二十八日午後

三、行人壇経塚

室町時代
伊達郡霊山町下小国

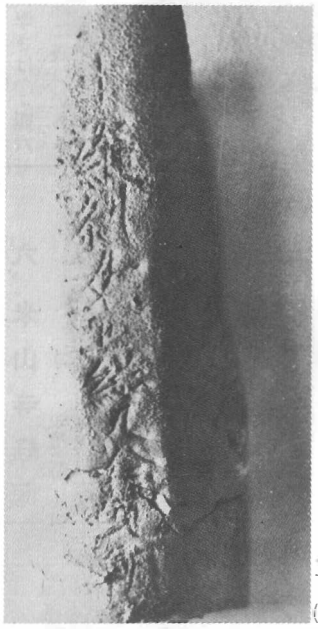
(1) 銅製鍍金経筒片
(2) 銅製観音像
(3) 銅製伏鉦
(4) 古　銭
(5) 陶製容器
(6) 木製品（外筒底部か）

大河内　勉

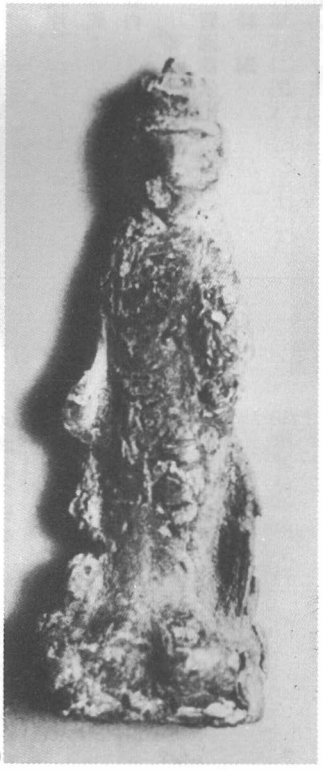
銅製経筒片に陰刻銘および墨書銘文がみられ、陰刻銘に

十羅刹女　上総□八住覚明
奉納経王六十六部第二典門
三十番神　天文二年吉旦

とある。



三―(1)



三―(2)

三―(3)

四、霊山経塚

平安時代後期
伊達郡霊山町大字大石

(1)銅製経筒
総高　二六・四センチ
霊山神社

明治期に出土したらしいが、その折の記録等は不明である。造りが良く、また鋳上りも良い。口径一三・六センチ、器壁の厚さは〇・四六センチと厚手である。底部に鋳口がある。

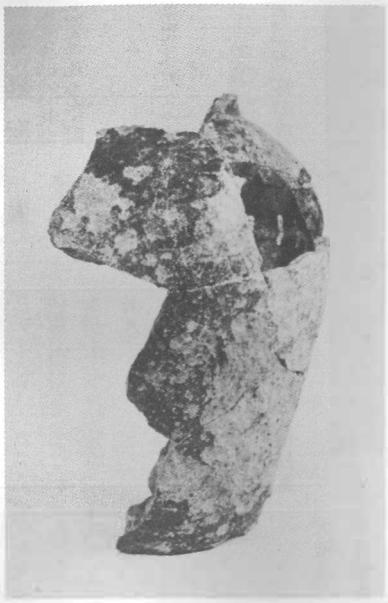
四―(1)

五、西田山経塚

鎌倉時代
伊達郡川俣町大字東福沢

(1)灰釉陶製壺

川俣町教育委員会
昭和五十年五月二十四日より二十八日にかけて発掘され、経塚と認られたもの一、近世の人骨を出した土壙墓一とその他石組遺構一が発見された。経塚遺構からは灰釉陶片一〇片と「元祐通宝」(宋銭)一枚が出土し、陶片を復厚したものが今回展示されている。陶片と宋銭からみてこの経塚は十三世紀初頭とされている。



五―(1)

六、米山寺経塚

平安時代後期
須賀川市大字西川

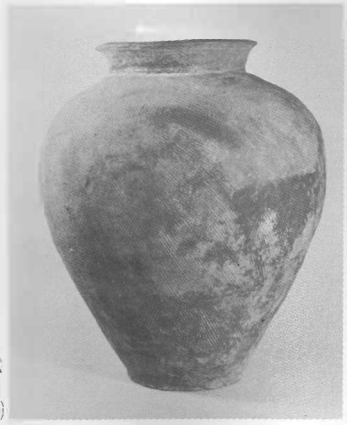
(1)陶製経筒(重文)総高二五・一センチ
(2)銅製経筒(重文)　高二〇・七センチ
(3)銅製経筒　総高　二七・八センチ
(4)銅製鏡(残欠)(重文)
⑤銅製鐎(残欠)(重文)
(6)須恵甕　高　三九・五センチ
日枝神社

米山寺経塚は、明治十七年(一八八四)に発見され、銅製経筒、陶製外筒の他、甕一、刀子二、銅鏡一、懸仏残片一、鉄鏃残片二が出土し、陶製外筒には次のような銘文がある。

敬白
奉施入
磐瀬郡米山寺如法
経　銅
大勧進　聖人僧行祐
大檀主　僧円珍
糸井国数　藤原貞清
白井友包　藤原末遠
右志者為慈尊三会
暁同一佛浄土往生也
承安元歳八月廿八日　辛午

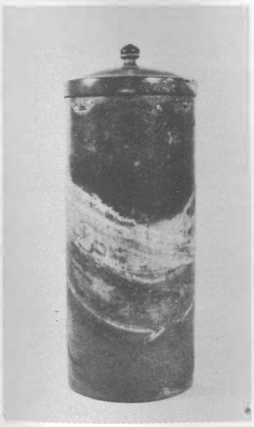
天王寺経筒銘、平沢寺経筒銘とともに同年号で、銘文中にある白井友包、糸井国数、藤原貞清、藤井末遠の四名は同一人物と思われ、三経塚に密接な関係があったことを意味している。

米山寺経塚は昭和五十一年(一九七六)の調査の結果、現在までに八基の経塚が確認されている。



六―(6)

六―(2)



六―(3)

六—(1)

七、天上林経塚

西白河郡東村字天上林

(1)松藤双鳥鏡一面　面径一〇・六センチ
(2)山吹鳥蝶鏡一面　面径一〇・四センチ

岩越二郎氏の記録によると、岩越家昭和六年（一九三一）、釜子村深新井田字天上林（現　東村）の道路改修工事のときに出土したものである。銅鏡が四面出土し、このうち二面が今日伝えられている。経塚と称しているがその他詳細は不明である。

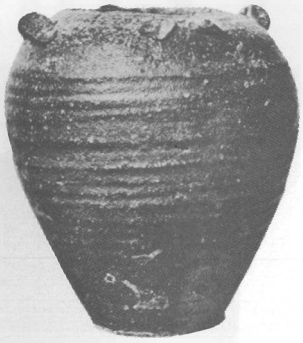
七—(1)

八、大塚山経塚

鎌倉時代
会津若松市一箕町

陶製壺（四耳壺）
会津若松市教育委員会

東北最古（四世紀末）とされる大塚山古墳（前方後円墳）の後円部墳丘より発見されたもので、直径約二〇センチほどの河原石に囲われて出土した。



九、松野千光寺経塚

平安時代後期
喜多方市慶徳町

(1)銅製経筒　高　二五・五センチ
(2)銅製鍍金経筒　高　十四・〇センチ
(3)銅製五鈷鈴　高　十二・〇センチ
(4)銅製五鈷鈴　高　十二・四センチ
(5)銅製磬
(6)銅製鍍金独鈷杵

二瓶　忠

今回展示されなかったが、この経塚から発見された石櫃には「大治五年（一一三〇）歳次庚戌四月二日発酉大檀越財主平孝家　散位源朝俊邦　縁支同氏」の銘があり、本県はもちろん、東北でも最も古い経塚である。実は、会津藩『家世実紀』によると江戸時代初期、寛文年間に一度発見されて埋めもどされたといわれる。昭和九年（一九三四）に再度発見された。出土遺物は今回展示のものの外に石製櫃、壺、刀片、鏃が出土している。

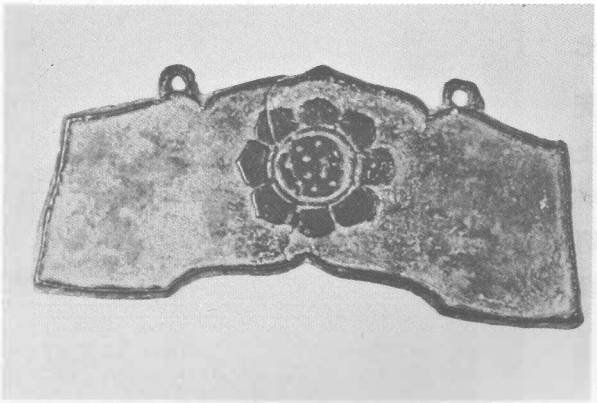
九—(1)

一〇、五職神経塚

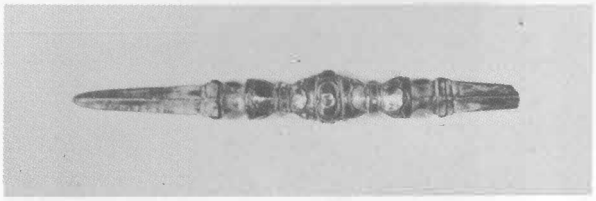
室町時代
耶麻郡西会津町上野尻

九—(4)

(1)銅製鍍金経筒
総高十一・七センチ
(2)銅製鍍金経筒
高十一・八センチ
（但し蓋欠失）
(3)銅製鍍金経筒
総高十二・二センチ
(4)石製外櫃
高三五・三センチ
（石蓋欠失）
(5)石製外櫃
高三四・五センチ
（石蓋欠失）
(6)石製外櫃
総高三七・一センチ



九—(5)



九—(6)

群岡中学校
昭和二十六年（一九五一）の工事中地下約一メートルの所で発見されたものであるが、発見時の状態等は不明である。
三口の銅経筒には、それぞれ次のような銘文がある。

(1)奉納六十六部之
如法経一部願主
石川之住人
源心敬白
永正十五戊寅年三月十八日
本願檀那妙㊀

(2)奉　納
六十六部之如法経日幻心聖□旦那
善斉阿□
奥州会津参州住人野尻山本
永正十六年己卯五月廿六日

(3)六十六部如法経旦那
□
□□野□住人
□
永正十六年己卯五月廿六日

一〇—(1)

一〇—(6)

一一、奥の院経塚

室町時代か
大沼郡新鶴村根岸

銅製鍍金経筒　高 九・八センチ
（但し上部欠損）
村松　繁穆

根岸の中田弘安寺銅造観音（重文）鋳造場所と伝えられる奥之院近くから発見されたもので、次のような銘文がある。

十乂刹女幡劦住一心坊
奉納経王一国十三部
三十ㄱ神當年今月日

なお今回出陳されなかったがやはり鍍金銅製の経筒があり、次のような銘文がある。

十羅刹女　奥州住人道珎
梵字奉納大日妙典六十六部
三十番神　享禄五天八月吉日

（奥州会津新鶴村誌）による。

一一―(1)

一二、舘山経塚

鎌倉時代
大沼郡新鶴村舘山

(1)陶製壺（四耳壺）　高 二九センチ
村松　繁穆

呉坪山経塚の壺同様平な石で蓋をされて発見されたという。底部に二・五センチ×二・一センチの小孔が外側からあけられているのが注意される。

一三、呉坪山経塚

鎌倉時代
大沼郡新鶴村呉坪山

(1)陶製壺（四耳壺）　高 二〇・七センチ
村松　繁穆

壺は平な石で蓋をされ玉石に囲まれて発見されたというが、その他の出土状況は不明である。

一三―(1)

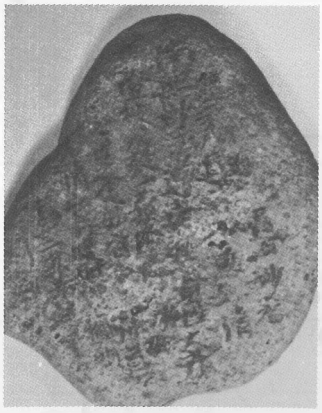
一四、中目経塚

室町時代
河沼郡会津坂下町中目

経　石（一字一石経）
会津坂下町教育委員会

『新編会津風土記』にも一字一石経を埋納した旨の記録があり、昭和五十年（一九七五）四月に発掘された。

経石の一つに「願以此功徳、普及於一切、我等与衆生、皆共成仏道□天文十三年甲辰九月十八日」とあり、この経塚の時代を知る上で貴重な資料となっている。



一五、茶腕塚経塚

中世末か
河沼郡会津坂下町塔寺

経　石（一字一石経）
会津坂下町教育委員会

塔寺八幡神社そばの茶腕塚地蔵（石像）堂下より出土。

一六、供養壇経塚

中世末か
河沼群柳津町野老沢

経　石（一字一石経）
柳津町教育委員会

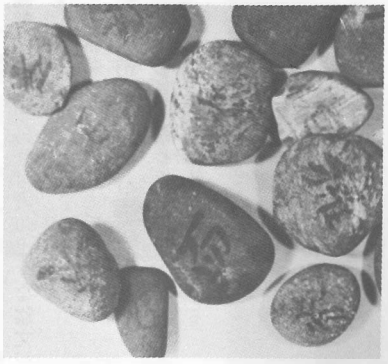
野老沢の通称グヨダンと呼ばれる所から出土する一字一石経である。

一七、釈迦堂経塚

江戸時代か
河沼郡柳津町

経　石（一字一石経）
柳津町教育委員会

柳津町虚空蔵堂奥之院の釈迦堂床下から出土したものである。



一八、蔵王経塚

平安時代後期
伊達郡川俣町大綱木

銅製経筒　総高　二五センチ
奈良国立博物館

小幡山出土といわれ、別名小幡山経塚ともいう。実は、出土地点等詳しいことは不明で安達郡東和町の木幡山かもしれない。この経筒には紙本経典（法華経と思われる）八巻の塊と石製の外筒がある

が今回は出品されなかった。石製外筒は盛蓋式の被せ蓋で身の口縁を印籠につくる。

一九、熊野神社経塚

平安時代後期
西白河郡大信村下小屋

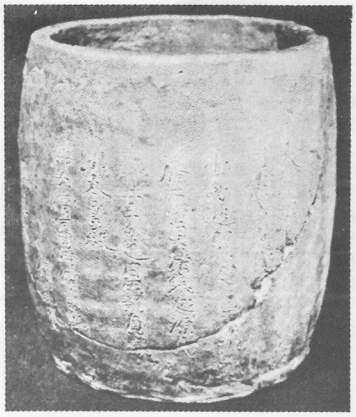
銅製経筒　総高　二六・八センチ
東京国立博物館

内部にくず状になった墨書による紙本経典がある。その他出土状態等は不明である。

福島県内経塚分布略図

福島県の経塚

関　秀夫



須賀川市の米山寺経塚群は、明治十七年に承安元年（一一七一）の紀年銘を持つ陶製外筒を出土したことで広く知られている。須賀川市教育委員会は昨年、この経塚群の調査を開始し、これまでに十基をこえる経塚を確認しているが、経塚の学術的な調査は全国的にも、まだその例が少なく注目される。一般に、経塚はそのほとんどが偶然の機会に発見され、遺構や遺物の出土状況などもはっきりしていない場合が多い。こうした中で、現在須賀川市が実施している調査は、きわめて深い意義を持つものといえよう。

一方、県歴史資料館では九月から「福島県の経塚遺物展」を開催することになり準備がすすめられている。県内約二十カ所の経塚から出土した遺物を一堂に集めて公開するというが、出品予定目録を拝見したところ、県内出土の主要な遺物のほとんどすべてが候補にのぼっており質的にもかなり期待できそうである。

＊　＊

さて、ここでは、県内の経塚について最近の発見も含めて、これまでに判明しているものを整理しておきたい。

県内出土の経塚遺物には、紀年の明らかなものが次の九例知られている。

(1)大治五年（一一三〇）
　喜多方市千光寺経塚出土の外櫃
(2)承安元年（一一七一）
　福島市天王寺経塚出土の外筒
(3)承安元年（一一七一）
　須賀川市米山寺経塚出土の外筒
(4)承安元年（一一七一）
　伊達郡平沢寺経塚出土の外筒
(5)永正十五年（一五一八）
　耶麻郡五職神経塚出土の経筒
(6)永正十六年（一五一九）
　耶麻郡五職神経塚出土の経筒
(7)享禄五年（一五三二）
　大沼郡奥之院経塚出土の経筒
(8)天文十三年（一五四四）
　河沼郡中目経塚出土の礫石経
(9)永禄六年（一五六三）
　喜多方市湯殿山神社経塚出土の経筒

このほかに、嘉元三年（一三〇五）の経塚供養碑が安達郡の元相応寺経塚に知られている。

畿内では十世紀末から経塚の営造がみられるが、福島県では大治五年（一一三〇）に営まれた喜多方市千光寺経塚が、もっとも早い例である。今のところ、東北地方でこれをさかのぼる例は発見されていない。関東地方では栃木県小野寺の長治元年（一一〇四）が早く、中部地方では山梨県勝沼の康和五年（一一〇三）が早い例である。こうした例からみると中部以北では十二世紀になって経塚の営造がはじめられているようである。

＊　＊

次に、最近調査されたものも含めて、これまでに福島県内で発見されている経塚遺跡をあげてみることにする。なお、『福島県史』等で経塚として扱われてきたものについては、研究の余地が残されているものも若干あるが、ここではそのままとりあげた。

経塚の地名は、奥羽街道に沿った中通り地方、太平洋岸に沿った浜通り地方、それに会津地方の三地区に分けた。

なお、地名にはそれぞれ参考となるべき文献をあげておいた。①②③等の数字はこの稿の最後にあげた参考文献の番号をあらわしている。

〈中通り地方〉

(1)天王寺経塚（福島市飯坂町寺山）
　遺物―陶製経筒（承安元年銘）一、陶製壺一、陶製甕二、瓦塔片一。
　ほかに経巻、仏具、短刀などを出土したと伝えるが所在不明。
　文献―④⑫⑭⑰⑱⑲⑳㉒㉓㉟㊱
(2)王宮経塚（郡山市片平町三島山）
　遺物―陶製壺二、和鏡（鏡背に如法経……の刻銘あり）一。
　文献―⑱⑲㉓㉕
(3)八ツ山田経塚（郡山市富久山町八山田）
　遺物―和鏡一。
　文献―⑱㊳
(4)大乗院経塚（郡山市大重町）
　遺物―礫石経を出土したと伝える。
　文献―⑨⑲
(5)米山寺経塚群（須賀川市西川字坂ノ上）
　遺物―一号経塚―銅製経筒一、陶製外筒一、短刀四。ほかに朱書経巻一一（所在不明）
　二号経塚―陶製甕一、鉄鏃五、短

刀一。
三号経塚―陶製甕三、鉄鏃二、短刀一。
四号経塚―銅製経筒一、陶製外筒（承安元年銘）一、和鏡一、鉄鏃三〇、短刀一五、古銭一。
文献―①②③⑥⑦⑫⑭⑰⑱⑲⑳㉒㉓㉔㉖㉝㉟㊲

(6)小倉寺経塚（福島市松川町小倉）
遺物―石櫃片
文献―⑲

(7)元相応寺経塚（安達郡大玉村大山）
遺物―経塚供養石塔（嘉元三年銘）
文献―⑱

(8)霊山寺経塚（伊達郡霊山町）
遺物―銅製経筒一。ほかに陶製外筒一、および短刀は所在不明。
文献―②⑱⑲㉓

(9)行人田経塚（伊達郡霊山町下小国）
遺物―銅製経筒片（うち一片に銘文あり）、銅観音像一、鉦一、白磁香炉一。
文献―㉟、藤田定興氏調査

(10)平沢寺経塚（伊達郡桑折町平沢）
遺物―陶製容器（承安元年銘）一、は文政五年（一八二二）に発見されたが、嘉永元年（一八四八）に手拓された拓影のみ遺存する。土器数個（所在不明）。
文献―⑫⑭⑰⑱⑲⑳㉓

(11)西田山経塚（伊達郡川俣町東福沢）
遺物―陶製容器一、古銭一。
文献―㉛㉞㊶

(12)蔵王経塚（伊達郡川俣町大綱木）
遺物―銅製経筒一、石製外筒一、経巻塊八。
文献―㉖㉞

(13)七所神社経塚（田村郡田村町小川）
遺物―鏡像一。
文献―⑱

(14)熊野神社経塚（西白河郡大信村下小屋）
遺物―銅製経筒一、経巻片、鉄鏃二、短刀七。
文献―⑯⑱㉑㉓

(15)天上林経塚（西白河郡東村）
遺物―和鏡二
文献―⑱

(16)小島経塚（伊達郡川俣町小島）
文献―㉞

(17)栗和田経塚（伊達郡川俣町西福沢）
文献―㉞

(18)西原遺跡（田村郡船引町堀越）
文献―㉘

(19)芦田塚経塚（須賀川市芦田塚）
遺物―和鏡一。
文献―⑱
このほか、『遺跡地図』に経塚として、

(20)羽山嶽経塚（福島市伏拝字羽山嶽）

(21)牛の塔経塚（郡山市三穂田町川田）

(22)大作経塚（石川郡石川町母畑）

(23)三ツ壇遺跡（岩瀬郡長沼町江花）

(24)青生野経塚（東白川郡鮫川村渡瀬）

(25)大久保経塚（東白川郡鮫川村渡瀬）
の六つが収められている。
また志田正徳の『信達一統志』（天保一二年）には、

(26)福島市岡部（礫石経）

(27)福島市郷野目（法華経千部の埋納塚）

(28)福島市李平（礫石経）
の記事が見える。

〈会津地方〉

(29)千光寺経塚（喜多方市慶徳町松舞家）
遺物―石櫃（大治五年銘）一、銅製経筒三、陶製壺七、独鈷杵一、五鈷鈴二、磬一、短刀約二〇、鉄鏃一。
文献―⑧⑩⑪⑭⑱⑲

(30)湯殿山神社経塚（喜多方市松山）
遺物―銅製経筒（永禄六年銘）一。
文献―⑱

(31)大塚山経塚（会津若松市一箕町）
遺物―陶製壺一。
文献―㊵

(32)呉坪山経塚（大沼郡新鶴村）
遺物―陶製壺一。
文献―⑬⑱

(33)館山経塚（大沼郡新鶴村）
遺物―陶製壺一。
文献―⑬⑱

(34)奥之院経塚（大沼郡新鶴村）
遺物―銅製経筒（享禄五年銘）一。
文献―⑬⑱

(35)中川経塚（大沼郡金山町中川）
遺物―陶製甕一。
文献―㉙

(36)塔寺経塚（河沼郡会津坂下町塔寺）
遺物―湖州鏡一、礫石経、木製容器片。
文献―⑱㊴　藤田定興氏調査

(37)中目経塚（河沼郡会津坂下町五香）
遺物―礫石経（天文十三年銘）。
文献―㉗㉚㉜会津と考古五

(38)五職神経塚（耶麻郡西会津町群岡）
遺物―銅製経筒（永正十五年銘）一、銅製経筒（永正十六年銘）一、銅製経筒一、石製外筒三、経巻塊。
文献―⑱
『遺跡地図』に経塚として収録されているものに、

(39)経壇遺跡（喜多方市字経壇）

(40)小沢田遺跡（大沼郡新鶴村和田目）

(41)橋爪経塚（大沼郡会津高田町橋丸）
がある。
また『新編会津風土記』（文化六年）には、

(42)会津郡御山村（経塚）

(43)会津郡南原村（経塚）

(44)河沼郡南宇内村（礫石経）
などが記されているほか、平田新五右衛

門所蔵の銅製経筒（保延五年八月四日銘）の図が残されている。

〈浜通り地方〉

㊺白水経塚（いわき市内郷白水町）
文献―⑮⑱⑲㉓

㊻松倉経塚（双葉郡富岡町松倉）
遺物―銅製経筒一、白磁甕一、和鏡一。
文献―⑱⑲㉓㉟

㊼権現山経塚（原町市江井）
文献―遺跡地図

以上のように福島県における経塚の分布は、中通りと会津地方に密であるが、浜通りにはわずか三例しかみられない。こうした分布現象について、三宅敏之氏は「古代郷土生活の歴史考古学―経塚を通じてみた福島県の場合」（昭和45）の中で、奥羽街道沿いの中通りに経塚営造の気運を持った社寺が多かったということを意味している、と記されている。

〈参考文献〉

①淡厓（神田孝平）「土中出顕経巻実見記」東京人類学会雑誌二〇（明治20）

②犬塚又兵「雑記（須賀川経塚）」東京人類学会雑誌二五（明治21）

③佐藤重紀「東北地方旅行見聞」東京人類学会雑誌三五（明治22）

④大槻如電・大槻文彦「岩代国に於て発見せる経筒の銘に就きて」考古一―五（明治33）

⑤関　保之助「岩代発見の経筒」考古界一―三（明治34）

⑥若林勝邦「岩代国発見の経筒数種」考古界一―一一（明治35）

⑦木崎愛吉『大日本金石史一』（大正10）

⑧二瓶　清「大治年間の経塚発掘」北陽史談八―四（昭和4）

⑨跡部勝邦「福島県下に遺存する供養碑に就て」史蹟名勝天然記念物五―七（昭和5）

⑩二瓶　清「大治五年経塚発掘」会津と考古特輯号（昭和10）

⑪二瓶　清「耶麻郡慶徳村大字松舞金山経塚発掘品に就いて」岩磐史談一―四（昭和11）

⑫岩越二郎「福島県出土の承安元年箆書経筒に就いて」福島史学研究四（昭和29）

⑬新鶴村誌編纂委員会『奥州会津新鶴村誌』（昭和34）

⑭竹内理三『平安遺文金石文編』（昭和35）

⑮内郷市教育委員会『白水阿弥陀堂苑池発掘調査報告書』（昭和37）

⑯蔵田　蔵「経塚論二（東京国立博物館保管、東北地方出土の経塚遺物）」MUSEUM一四八（昭和38）

⑰奥村秀雄「経塚研究の一視点―藤井姓に関して―」大和文化研究八―八（昭和38）

⑱福島県『福島県史　六（考古資料）』（昭和39）

⑲木口勝弘『奥州経塚の研究』（昭和40）

⑳中村五郎「岩代承安経筒銘に見る藤井姓について」大和文化研究一〇―五（昭和40）

㉑東京国立博物館『東京国立博物館図版目録―経塚遺物編―』（昭和42）

㉒福島県教育委員会『文化財読本』（昭和45）

㉓三宅敏之「古代郷土生活の歴史考古学―経塚を通じてみた福島県の場合―」（古代郷土史研究法）朝倉書店（昭和45）

㉔須賀川市『須賀川市史二　中世編』（昭和48）

㉕郡山市『郡山市史八』（昭和48）

㉖奈良国立博物館『新館落成記念　経塚遺宝展（展観目録）』（昭和48）

㉗福島県考古学会「中目経塚」（福島県考古学年報四）（昭和49）

㉘福島県考古学会「昭和四十九年福島県内埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表」（福島県考古学年報四）（昭和49）

㉙金山町『金山町史上』（昭和49）

㉚中村五郎「中目経塚遺跡」（日本考古学年報二七）（昭和49年度）

㉛福島県考古学会「西田山経塚」（福島県考古学年報五）（昭和51）

㉜中目経塚調査会「会津坂下町中目経塚」福島考古一七（昭和51）

㉝須賀川市教育委員会『米山寺経塚一』（昭和51）

㉞川俣町『川俣町史二（原始・古代・中世・近世資料編一』（昭和51）

㉟梅宮　茂・目黒吉明・木本元治・丹羽茂「福島県内出土中世陶磁器について」しのぶ考古六（昭和52）

㊱池田京子・長根裕子「天王寺経筒について」福島女子高校郷土史研究（昭和52）

㊲吉田幸一「史跡米山寺・米山寺経塚群試掘調査速報」南奥古文化一（昭和52）

㊳郡山市『郡山市史一』（昭和50）

㊴会津坂下町『会津坂下町史二（文化編）』（昭和51）

㊵会津若松市『会津若松市史　別巻一』（昭和39）

㊶川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

〈附記〉なお本稿をまとめるにあたっては、三宅敏之氏の「古代郷土生活の歴史考古学―経塚を通じてみた福島県の場合―」（昭和45）におうところが多かった。

（筆者は東京国立博物館有史室勤務）

東北地方の経塚遺物年表

西紀	年　号	遺　物	出　土　地	文　献
1130	**大治5**	**石　櫃**	**福島県喜多方市慶徳町松舞家**	**岩磐史談－4**
1140	保延6	銅経筒	山形県南陽市宮内別所山	MUSEUM148
1149	久安5	銅経筒	秋田県平鹿郡大森町八沢木	考古学雑誌42－4
1167	仁安2	銅経筒	山形市山寺	歴史考古12
1168	仁安3	銅経筒	秋田県大曲市六郷東根一字山	考古学雑誌42－4
1171	**承安1**	**陶外筒**	**福島市飯坂町寺山**	**考古1－5**
1171	**承安1**	**陶外筒**	**福島県須賀川市西川字坂ノ上米山寺経塚**	**考古界1－3**
1171	**承安1**	**陶外筒**	**福島県伊達郡桑折町平沢字一本松**	**福島史学研究4**
1184	寿永3	銅経筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42－4
1196	建久7	銅経筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42－4
1206	元久3	銅経筒	秋田県横手市金沢町寺沢	考古学雑誌18－1
1252	建長4	銅経筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1283	弘安6	礫石経	宮城県宮城郡利府町道安寺	東北歴史資料館研究紀要1
1319	文保3	銅経筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1376	永和2	銅経筒	宮城県黒川郡富谷町二ノ関	考古学雑誌1－5
1518	**永正15**	**銅経筒**	**福島県耶麻郡西会津町群岡**	**『福島県史6』昭和39年**
1519	**永正16**	**銅経筒**	**福島県耶麻郡西会津町群岡**	**『福島県史6』昭和39年**
1528	大永8	銅経筒	宮城県牡鹿郡鮎川町網地島	東北歴史資料館研究紀要1
1529	享禄2	銅経筒	宮城県志田郡三本木町坂木館山	東北歴史資料館研究紀要1
1531	享禄4	銅経筒	宮城県仙台市愛宕山	東北歴史資料館研究紀要1
1532	**享禄5**	**銅経筒**	**福島県大沼郡新鶴村中田**	**『奥州会津新鶴村誌』**
1533	天文2	銅経筒	山形県東置賜郡宮内町所部	歴史考古12
1535	**天文4**	**銅経筒**	**福島県伊達郡霊山町下小国**	
1536	天文5	銅経筒	山形県尾花沢市六沢	歴史考古12
1542	天文11	銅経筒	山形県米沢市窪田	歴史考古12
1544	**天文13**	**礫石経**	**福島県河沼郡会津坂下町五香中目**	**福島考古17**
1546	天文15	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1547	天文16	銅経筒	宮城県桃生郡河北村横川	考古学雑誌24－11
1551	天文20	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1555	天文24	銅経筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1551～1555	天文2口	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1557	弘治3	銅経筒	山形県東置賜郡川西町大舟	歴史考古12
1563	**永禄6**	**銅経筒**	**福島県喜多方市松山湯殿山神社**	**『福島県史6』**
1569	永禄12	銅経筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1584	天正12	銅経筒	岩手県遠野市小友	東京国立博物館紀要4